

19m06

教育方法論m

解答例

1 目標標準拠評価

教育方法論 m 第 6 回 テーマ「目標に準拠した評価の意識と展開」5 班 518117 番号 名前 森下雅美

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

ポイント 1) 2001 年までは日本の公的な教育評価観は「相対評価」

2) 目標に準拠した評価の支持

3) 目標に準拠した評価の懸念される点

4) 新しい教育評価「新正の評価」

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●

ポイント 1) 各教科については、学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況の評価と総括的にとらえる評定

2) 学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する集団に準拠した評価

3) 観点別学習状況の評価や評定には示しきれない子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する個人内評価

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●

ポイント 1) 絶対評価のメリット→周囲にどれほど優秀な人材がいたとしても、その人の成績に自分の評価が左右されないこと

事前に決められた基準で評価するため、評価される本人の納得が得やすいこと
公平性の担保にも有用

2) 絶対評価のデメリット→評価者の能力によって評価が左右されやすい点

3) 相対評価のメリット→評価する側にとってはやりやすい方法

4) 相対評価のデメリット→合理性を欠いた評価になってしまう(集団内での位置付けしかわからない)

(4) 自分の意見

全体の要点●

ポイント 1) 以前の相対評価では学習活動の反省が子供達に向かってしまう可能性があった。教育評価は、教師が子供達の習熟度を改善するための指標でなければならないと思った。

2) 今の教育評価の良い点と改善点を踏まえた上で評価していく

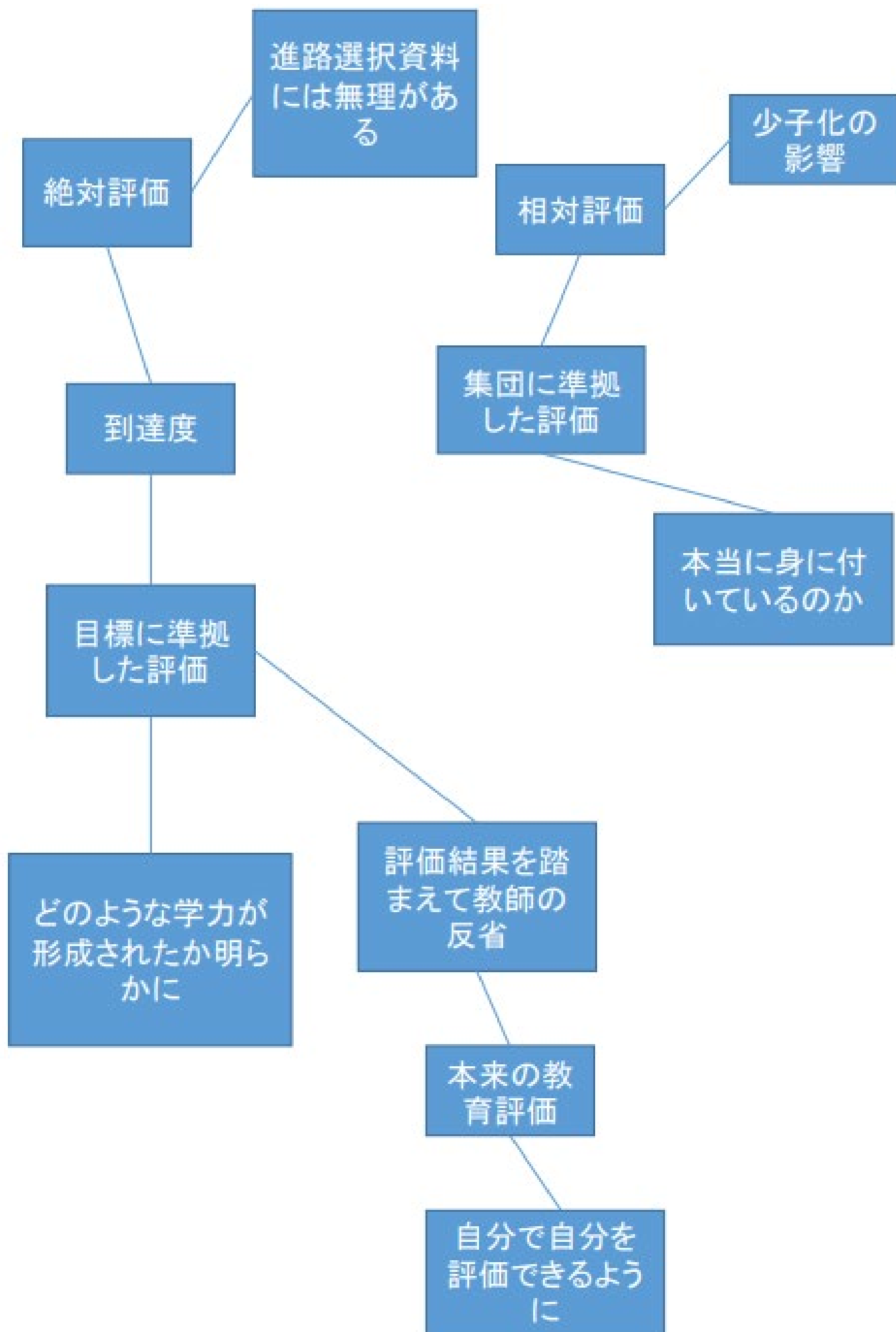
3) 絶対評価は教師の能力によって評価が左右されやすい

(5) 出典(文献名、url 等)

(1) 文部科学省(2017). 「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.

(2) 文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.

(3) www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm



2 形成的評価と自己評価

教育方法論 第6回 テーマ「形式的評価と自己評価」

(1) 「新しい時代の教育方法」より

教育評価というものは、生徒の学習や発達を評価するものであるが、実際はこれだけでは不十分である。そのため、自己評価と授業課程ないで行う評価である形式的評価を緊張関係の中であるが、自己評価能力を形成させていきながら、生徒の「学び」の自己評価を形成させていく。

ポイント)

- ・ブルームは、「形成的評価」と「総括的评价」から「診断的评价」を追加して分化させることが有効なフィードバックを行うことが有効であるとした
- ・診断的评价は学習となる前提のものの把握する評価、形成的評価は授業課程で行われる評価、総括的评价は学期末・学年末に行う評価である
- ・自己評価は言葉の意味通りであり、自己評価能力はメタ認知やモニタリングと言われている

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

指導要領解説では、大半の内容が自己評価についての内容であるが、形式的評価についても書かれている。その中では、生徒が主体となれるような評価をしていかなければならないとしていながら、3つの柱についても注意して評価していかなければならないとしている。

ポイント)

- ・生徒に学習したことの意義や価値観を実感できるようにすること
- ・相互評価や自己評価では生徒自身が目標や課題を持って学習を進めていけるような評価をすることが必要
- ・形式的評価では、資質・能力の3つの柱の3観点から評価しなければならない

(3) ネット資料から(長所・短所等)

様々な評価においては、形式的評価・自己評価以外の評価の知識をつける必要があるが、ツールを用いた評価方法もある。これらを用いることで、教員がテストやアンケートを一々作成せずとも、データとして残せたりするので、細かな評価を行うことが可能である。

ポイント)

- ・ICT 機材やループリック用いて評価をする
- ・生徒が学習の形成発達段階で学習状況を把握するためにテストやアンケートで評価する
- ・インターンシップや体験学習においては第3者に評価をしてもらうという評価方法もある

(4) 自分の意見

形式的評価でテストやアンケート、ループリックといった型にはめたもので評価することは、評価をする教員としては楽であるが、これらで生徒の学習での評価をつけることで学習の自由度が制限されてしまうのではないかと疑問に感じた。

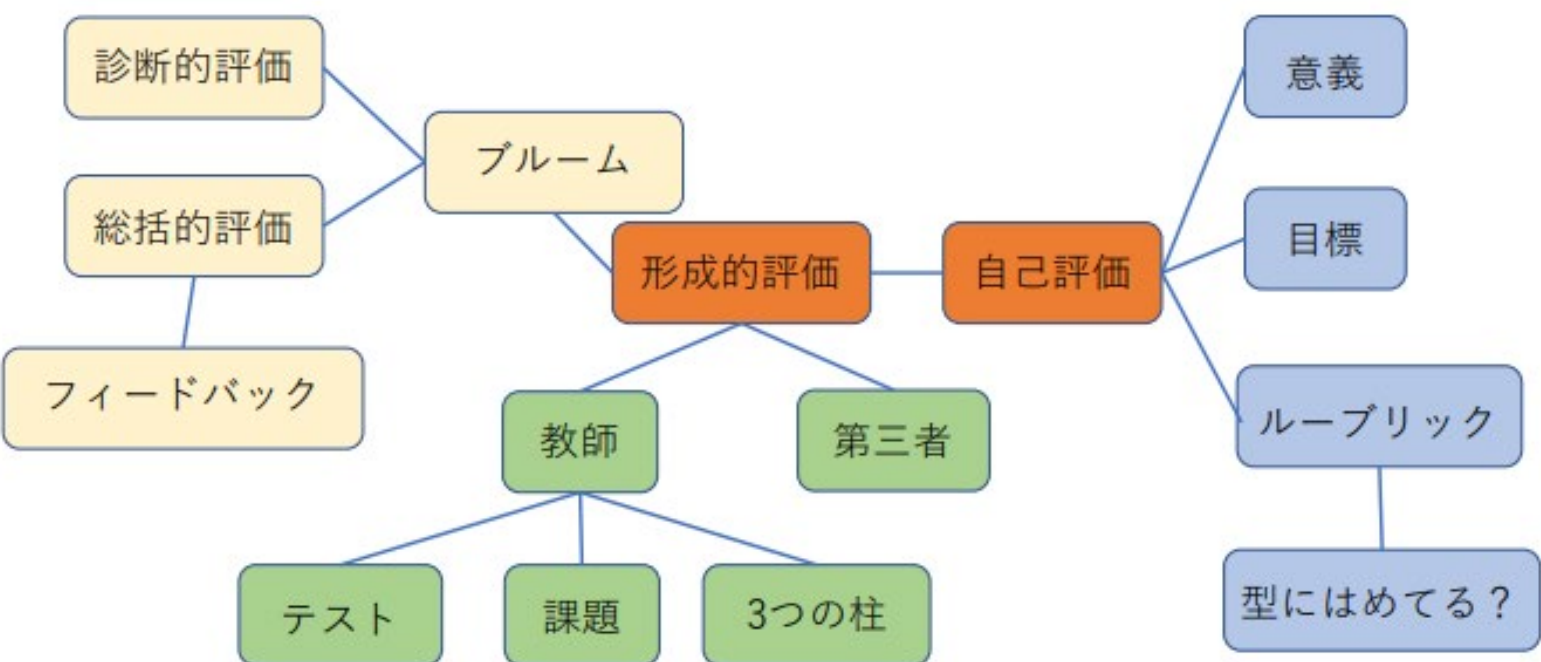
ポイント)

- ・テストで評価をして生徒の学習内容の定着していることがわかるのかが問題点となる
- ・ICT やループリックを活用するということもあるが、それはそれで型にはめた評価になりすぎないか
- ・自己評価においては、3つの柱を踏まえて生徒自身がどれだけ出来たかを評価させる必要がある

(5) 出典(参考文献、URL 等)

- ・「新しい時代の教育方法」 pp. 231～ pp.234
- ・「17 中学校学習指導要領解説」 pp.91～ pp.93 「18 高等学校学習指導要領解説」 pp.130～ pp.131
- ・教育アセスメント | 京都大学高等教育研究開発推進センター

(URL: <http://www.higheedu.kyoto-u.ac.jp/assessment/2019/10/28> 参照)



3 パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価

2019/10/31 : 09:04

教育方法論 m 第6回

パフォーマンス評価
テーマ 「ポートフォリオ評価」 4 班 番号 名前
B18014 大野 可奈

(1) 「新しい時代の教育方法」から
全体の要点 ● 授業で目標とする学力の水準や質に応じた評価方法の開発、工夫が必要

- ポイント1) パフォーマンス評価は、学び得たことをさまざまなメディアを使って表現させる方式
- 2) パフォーマンス方式によって「活用」の学力をばいとうとする
 - 3) ポートフォリオ評価では、通常の学習過程で生み出してくるさまざまな「作品」を蓄積すること大切にする
 - 4) 自分の学習を「自己評価」する力が形成される

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から
全体の要点 ●

ポイント1)

- 2)
- 3)
- 4)

(3) その他のネット資料から長所・短所
全体の要点 ●

ポイント1) ポートフォリオ評価は、過程・プロセスを評価するため、その人本来の能力を把握しやすい

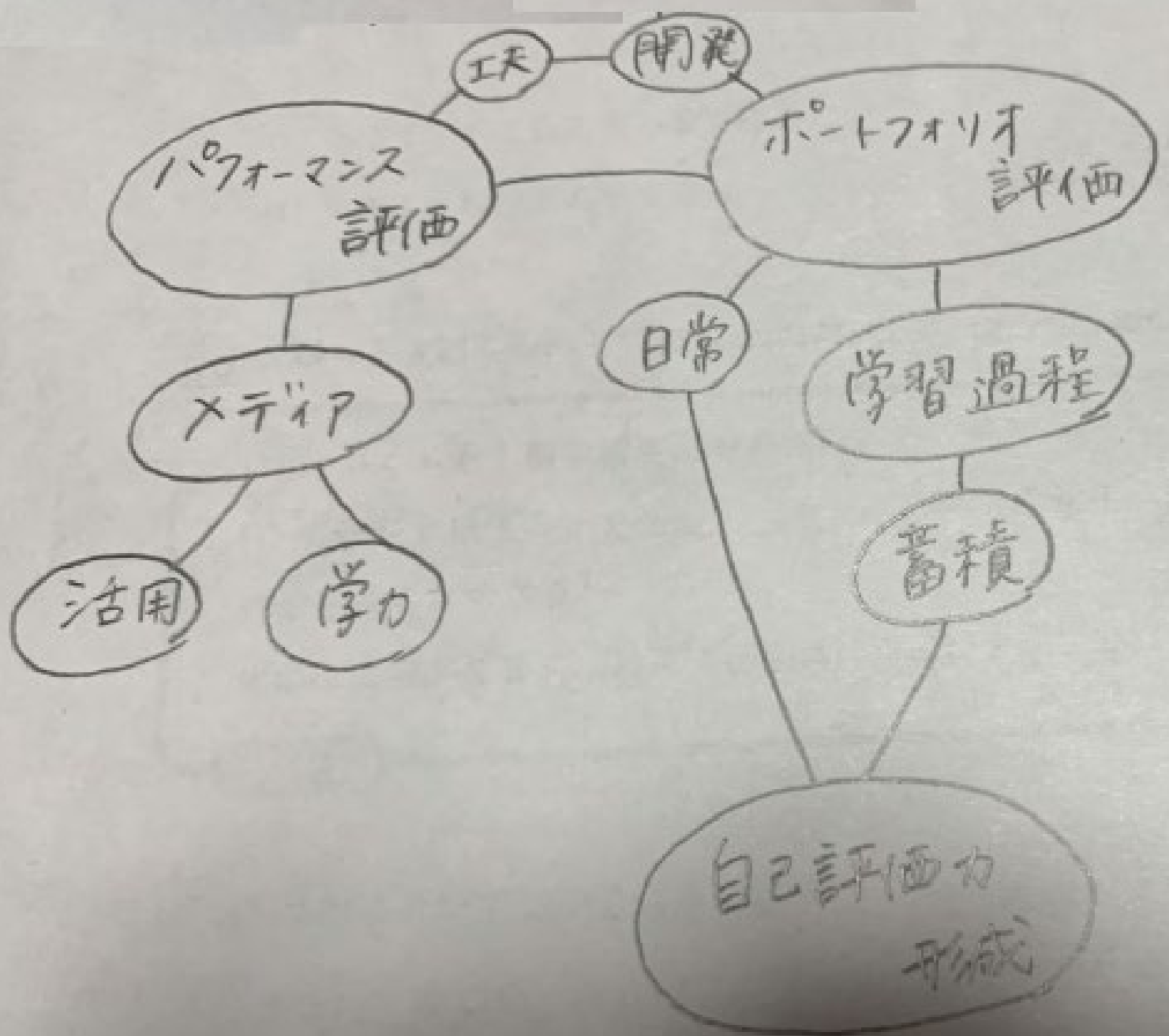
- 2) 学習方法や成果をこまめに確認できる
- 3) パフォーマンス評価のメリットは、評価者と被評価者の双方が課題に対して明確なフィードバックが得られる
- 4) 従来のテストで見えにくい「思考力」「表現力」などが見える

(4) 自分の意見
全体の要点 ●

- ポイント1) 子どもたちも評価するのに1つの方法では、評価が偏る
- 2) それぞれのメリット、デメリットがある
 - 3) それぞれの評価方法で、着目する力がちがう
 - 4)

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 文部科学省(2017). 「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (2) 文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (3)



4ICT活用例

第6回 予習
ICT 活用例

/ 班

1. 単 元

中学 理科 3年 単元6 地球の明るい未来のために...

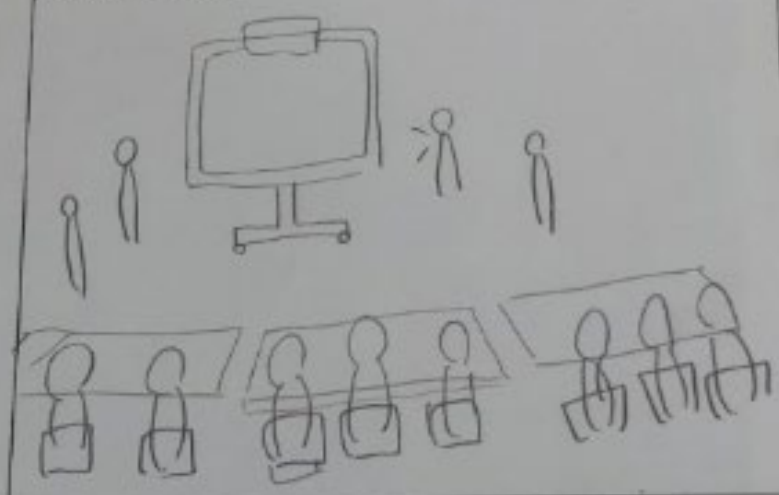
2. テーマ

地球の明るい未来のために - 災害を知って備えよう -

3. ICT 活用のねらい

- ・ インターネット、本 物を用いたメディアを活用する。
- ・ 災害・その防災について学ぶ
- ・ 防災意識を高める。(身近という意識)

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面 (授業中) 調べ学習	ICT 活用の手順 ○ PCを用いて各自 生まれ年以降の災害を調べる ○ 1人1台 Power Point を活用し、発表資料をつくる。 ○ 発表を行う。 イメージ図など 	○ テーマをいくつかに分け、班にわけ。 ○ きちんと時間を確保する。 ○ 授業内で 簡結させる。 ・ 災害名、年度 ・ 被害エリア、被害 ・ 特筆事項 ・ 行われた防災 ・ 自分がその災害に遭った場合、どういことをするか ・ 日頃からできる防災はなににか、など - を項目として入れさせる。

備考

使用教科書 「・・・」(〇〇社)

大日本書籍

中学校理科

準備物 ...

新版 理科の世界3

授業形態と工夫 ... 発表物が形になっているか確認する。

5. 出典・参考等

- ・ 防災の手引き〜いざな災害を知って備えよう〜 首相官邸 <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/>
- ・ 学習指導要領解説 中学理科p112 自然の恵みと災害について

ICT活用例

ICT 活用例

班 番号 名前 千原 将

1. 単 元

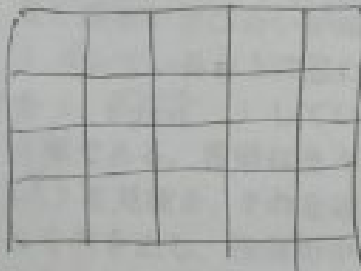
2. テーマ

プログラミング教育

3. ICT 活用のねらい

- ・ どのくらい進んでいるかから生徒の状態を知る。
- ・ リモートワークに慣れることができる。

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面 ()	ICT 活用の手順 ○ 生徒全員が同じアプリケーション内で行う。 ○ ○ ○ ○ イメージ図など 	○ ○ ○

備考

使用教科書 「・・・」(〇〇社)

準備物 ……

授業形態と工夫 ……

5. 出典・参考等

・ sky-school-inc.net/class/frant/frant69.html

5 確認問題05

教育方法論 m

第7回課題問題解答 (班番号、名前) のタイトルで提出

確認問題 05

(1) 教科書の補充として、教師が独自の教材を作るとき、学習者の実態として考慮すべきことを、「興味」以外に3つ挙げよ。

・関心、意欲、能力 第8章1節1項

(2) 次の、教材概念の拡張に関する文の、空欄を埋めよ。

子どもたちの（ 協同的 ）・対話的な学びを志向する（ 授業 ）では、教材の概念を拡張し、子どもたちが学びあうための材料・（ 素材 ）としての（ 学習材 ）概念への転換が必要である。その場合、最も重要になるのは、授業において（ 生成 ）される子どもたちの発言・文章である。これをもとにして話し合いや（ 討論 ）が展開していく。真の意味で学び合いが成立するのは、（ 一見 ）ズレているように思われるが、実は重要な意味を（ 内在 ）しているような子どもの発言・文章である。教師はそうした発言・文章の（ 価値 ）を見抜き、それをほかの子どもたちの前でうまく引き出し、授業の中に（ 活かし ）ていかなければならない。第8章3節1項

(3) 「メディアと教育は本質的に背馳する一面がある」という主張について、簡潔に説明せよ。

メディアを使いこなして自由になると主張する立場と、メディアを制限して秩序を守ると主張する立場の相克を述べている。批評的精神の表れと肯定的見るか、秩序を破壊する怖さと否定的に見るかということでもある。 第8章2節3項

(4) 「教材づくりにおける『上からの道』『下からの道』『メディアリテラシーの素材として教科書を活用する』『電子黒板において注目される機能』のうち1つについて簡潔に説明せよ。

「教材づくりにおける『上からの道』『下からの道』上からの道では、個々の科学的概念や法則、知識を分析し、それに関連する事実、現象のなかから子どもの興味関心を引き寄せる素材を選び出し、教材に構成する。下からの道では、日常生活の中で、子どもの興味関心を引きそうな事実に出会ったときに、それと関連する教科内容に位置付けて、教材に構成する。 第8章1節2項

「メディアリテラシーの素材として教科書を活用する」授業で教科書の内容をなぞるのではなく、新しい派遣に導いたり知的好奇心を高めるために、複数の教科書を比較したり、原典と比較したりして学習を進めることである。 第8章2節1項

「電子黒板において注目される機能」
・板書内容のスキャナ機能とプリント出力機能
・プロジェクタ出力機能とタッチパネル機能、およびその複合機能
・上記の機能を、同時に複合させる機能 第8章コラム

**) 確認問題 02 を自己評価し、
気づいたこと、感じたことをのべよ
■ 5段階自己評価（ ）
■

